

イエス団報

賀川精神を引き継ぐ

理事長 木村量好



賀川先生との出会い

敗戦の混沌とした状況の中、小松島の小学校で賀川豊彦先生の講演会があり、友人と二人で聴きに行ったのがキリスト教との出会いである。

その後、徳島市に移り住み常三島で開拓伝道をされていた小川秀一先生の教会に導かれ受洗した。大阪の徒弟生活時代

小川秀一先生の信仰に生きる姿を見て牧師になる決意を固め同志社に学び、卒業と同時に四貫島教会と天使保育園と友隣館で働いた。毎日七ツ道具を腰に付け伝道師に必要な三パンという技術を学んだ。それは看板、ガリ板、ソロパンのことで週報づくりから始まり、集会の企画、実行、統計づくりまですべてを運営実践する力が身についた。

京都の開拓伝道の時代

京都市の伏見で保育園をつくる事を決断して四貫島を離れたが取りかかると数多くの困難に直面した。その一つは借金の担保物件が無くてイエス団の常務であった武内勝先生に相談したら「折ることだ」と教えられた。「私は賀川先生と歩いていて『ここで折ろう』と電柱の影で何度一緒に折ったことか」と励まされた事が忘れられない。

或る日のイエス団の理事会

賀川ハル理事長に代わって金田弘義先生が司会をされていた時だった。私は京都府の八幡市に保育園をつくる計画で土地を買ってその一部に教会を造り込もうという企画提案をしていた。その席で涌井理事がこう発言された。「若者がイエス団の基本財産を増やそうとしているのに本部が応援しない手はないだろう」と。この一言で当時の金で七百萬円の資金援助が決って感動した。この姿勢は大切にしたいと思う。

神戸の賀川記念館

賀川先生の影響を受けた組織や人物をたどりながら本拠地・神戸に相応しい記念館のデザインを今井先生、村山先生を中心にして本腰を入れて法人として取り組まねばならない。

建物や運営のことは大切だが先ず大勢の心を寄せ合うこと、祈りを寄せ合うことが一番大切だと思う。村山先生は自分のところを一番後回しにして他の施設の老朽改善を優先させてきた歴史がある。この辺りで社会福祉法人・学校法人イエス団の本部の建設に心を寄せ合おう。

京都プロック会議

京都に賀川精神で一粒の種がまかれてから丁度四十年になる。今は二代目の時代を迎えたわけで、既に九つの事業所が誕生しそれぞれに福祉の領域で地域に信用された良い仕事をしている。彼らは互いに力を合わせて賀川精神によって神から預かった信託財産を二十一世紀に大きく発展させようと折りつつ知恵を寄せ合っている。今彼らは十個目の事業所を開拓しようとする京都府の南木津町の学研都市に企画提案中である。各プロック毎に新しい時代に相応しい取り組みが話し合いによって進展されることを心から望むところである。

◆発行者 木村量好
◆編集者 黒田信雄
◆発行所 神戸市中央区
神戶市中央区
吾妻通 20
5-5-1 法人
社会福祉法人
学校法人
イエス団
TEL:078
221-9565
FAX:078
221-9566

二〇〇三年度 法人の動き

● 社会福祉法人の動き

- 一、理事会の報告（定員十一名、現員十一名）
今年度は計四回の理事会を開催し、二十七の議案について討議しました。
- ①五月二十二日、〇二年度の事業報告、決算など七議案
- ②九月十九日、施設長人事、企画委員会の答申など七議案
- ③十一月二十六日、各施設上程議題、寄付金申請の件など五議案
- ④三月十日、〇三年度補正予算、〇四年度事業計画・予算など八議案
- 二、評議員会の報告（定員二十七名、現員二十四名）
今年度は二回の評議員会を開催し、九の議案について討議しました。
- ①五月二十二日、〇二年度の決算・事業報告など四議案
- ②三月十日、〇三年度補正予算、〇四年度事業計画・予算など五議案
- 三、常任理事会の報告（三回）
一回目は企画委員も参画し、拡大常任理事会として組織、各内規について討議しました。
- ①七月八日、企画委員会の答申の件、消費税の件など三議案
- ②一月三〇日、企画委員会の答申の件、役員改選の件など五議案
- ③三月二十九日、次期理事会の構成について
- 四、企画委員会の報告（五回）
企画委員も多忙な日常の業務外に五回の委員会を開催し、研修の企画、運営上の諸問題についての対応策の立案等に取り組みました。
- ①四月二十二日、四議案
- ②六月五日、四議案
- ③十月三〇日、三議案
- ④十二月四日、二議案
- ⑤二月二十六日、四議案
- 五、編集委員会の報告 イエス団報 再刊五号を〇三年九月一日、再刊六号（中堅職員研修会報告）を〇四年二月十日に発刊しました。
- 六、研修会の報告
今年度は理事長、常務理事、企画委員のご協力を得て、以下の研修会を開催しました。
- ①第七回 会計研修 二月六日 勤労会館（五十三名参加）
- ②雲柱社合同中堅職員研修 十一月十〜十二日 府中青年の家（雲柱社十八名・イエス団二十二人参加）
- ③新任職員研修 三月二十二、二十三日 関西セミナーハウス（新任六十四名、講師、理事、スタッフ八名参加）
- 七、施設長人事
・〇四年三月三十一日付 馬見勞務保育園 森田香代園長退任（〇四年四月一日 宮原直希氏就任）
- 八、その他の事項
*〇四年三月六日に楠葉新生園十周年記念礼拝がもたれました。
*懸案の定款変更は、目的の項を確認、厚生労働省に進達。

● 学校法人の動き

一、理事会・評議員会の報告

(理事定員八名、現員八名)
(評議員定員十七名、現員十七名)

○三年度、以下の通り三回の理事会(内二回は評議員会合同)が持たれ、二葉幼稚園の運営上の諸問題について討議しました。

①五月二十二日(理事会、評議員会) ○二年度決算、事業報告など二議案

②八月十九日(理事会のみ) ○四年度園児募集について、八〇周年記念事業など四議案

③三月十日(理事会、評議員会) ○三年度事業計画、予算など二議案

二、運営委員会の報告

・木村量好委員、小西孝彦委員、長谷川進一郎委員、村山盛嗣委員、奥田和弘委員、中村 清委員、長谷川其枝委員、吉田 慎委員
六月十日、九月十七日、十一月十八日、二月十日 四回開催

● その他特記事項

私たちの村山盛嗣常務理事が、○三年九月十一日に開催されました神戸市社会福祉大会において賀川記念館の先駆的実験的な取り組み、また民間保育園園長として児童の健全育成に尽くし、広く地域福祉の向上に貢献されたことに対し、神戸市市民福祉功労賞を受賞されました。

各ブロックの動き

【京都ブロック】

京都ブロックでは、去る四月二十六日、創立四〇周年イベントを予定している桃陵&桃陵乳児保育園・「冒険小屋」を地域にも開放しているぶどうの木保育園・野の百合保育園・スヌーズレールーム考案中の空の鳥幼児園・愛隣アイサービスタワー・重心通所B型「シサム」・向島障がい者地域支援センター「遊隣」・京都市南園城の障がい者ケアマネジメントの請負・ニーズの集約、ネットワーク作り等を行う京都市南部障がい者生活支援センター「あいりん」・障がい者ホームヘルプ事業「ゆうりん」・障がい者ホームヘルプ事業「ゆうりん」で会議をもった。

【兵庫ブロック】

去る二月二十六日、久しぶりに兵庫ブロック施設長会議を真愛ホームで開き、苦情処理と権利擁護について、学びの時を持ちました。先ず真愛ホーム二宮施設長からの発題のあと、各施設から苦情処理の事例を紹介し合い、初めて出席頂いた第三者委員を交えて、現場での適切な対応のあり方についての話し合いを行いました。

【大阪ブロック】

「馬見勞持保育園」：馬見勞持保育園の新しいシンボルマークができました。
地名の馬見から取った馬蹄に親しみやすい笑顔とあいまって子供たちに親しまれています。早速入り口の看板に用いました。(園長 宮原直希)



【豊島ブロック】

「豊島神愛館」：児童福祉法の改正により、乳児院で入所児を六歳まで継続養育できるようになります。同時に家庭的に養育するため、入所児4人程度を一組とするグループホーム(一般家庭の機能を持つ)による養育が開始されます。また六歳までの間に入所児が家庭復帰できるよう、親への子育て支援をすることが、乳児院の重要な役割となります。そのため正看護師を必要としています。献身者を求めています。

【四国ブロック】

「瞳保育所」：今年度四月、豊島が属する土庄町からの要請があり、幼保一元化による瞳保育所の運営が開始されました。現在保育所課程7人、幼稚園課程12人計19人です。

【宇山光の子保育園】

「宇山光の子保育園」：枚方市立宇山保育所が、○四年四月からイエス団に移管されたのに伴い施設長に任じられました。公立から民間へと保護者も職員も戸惑いがあるものの折りつつ、ひとつずつ問題を解消しそれぞれの良さが受け継がれた保育園となりますようお願いしています。くずは光の子保育園・くずは新生園の全面的なバックアップを得、スタートしました。(園長 市川潤子)

【甲子園二葉幼稚園】

「甲子園二葉幼稚園」：昨年十二月に創立八〇周年記念式典を行いました。西宮市で最初の私立幼稚園ということで、新聞でも取り上げられました。記念に園児たちが植樹したヤマモモは今丁度、赤い実をたくさんつけて、みんな大喜びです。また最近、シルバー人材センターの「子育てサポート」に協力依頼をされました。地域と共に歩む幼稚園を目指しています。

【賀川記念館】

「賀川記念館」：昨年末に地階テナント部分が突然契約解除。新たなテナントを入れない方針で将来計画に取り組んでいます。財政的には厳しいが、障がいを持つ中高生を対象に、知的障がい児放課後活動支援事業を始めました。昨年度までは当館学童保育で受け入れてきたが、新たなメンバーも加え五名でスタート。制度外の事業なので、市等にも訴えながら続けていく方針。

来年度以降は慰霊の日(六月二十三日)を挟む日程で行うとするが、今年度は二月に行う予定。
またイエス団として地域に向けた公開講座を次年度以降に計画することや施設危機管理では事例共有によるポトムアップなどが話し合われた。

**新任フオロアツプ研修が
開催されました！**

六月十二日から十三日まで、初めての取組としてフオロアツプ研修を実施しました。Y.M.C.A六甲研修センターを会場に、長尾先生をお迎えしての研修で、三〇名の参加がありました。参加者の感想で報告に替えさせていただきます。

雨上がり、恵みの雨を与えられた若葉がキラキラと光りかがやく六甲の山の中、開会礼拝で始まった研修会。開会礼拝で一人ひとりどのような人間であれ、尊いすばらしい命であり、我々は命の尊さ、重みに敏感になり、生活していかねばならないという話しを聞き、改めて命の大切さを感じ、とても気がひきしまる思いで研修会が始まりました。

今回の研修は、講義を聞き勉強するのではなく、一人ひとりの参加者が自ら自分の事を話し、他の園や施設の方の話しを聞き、自らが参加していく中で学び合うというものでしたので、最初は緊張と不安でいっぱいでしたが、研修が進むにつれ、もっといろいろな事を知りたい勉強したいという気持ちに変わっていききました。

この研修で一番印象に残っているのは、十三日の朝のグループワークでした。一人ひとりが現場での悩みを出し合い、お互いに話しをし共感したり、いろいろな対処方法を出し合いながら一つの悩みを選び、それを実際に主人公、登場人物、場面を決め、グループでその悩みの具体的な場面を演じ、主人公を悩みを持つ本人ではなく、ちがう人がする事により、具体的にその悩みの具体的な場面を目で見る事が出来、登場人物の一人ひとりの気持ちを感じたり聞いたりすることが出来、悩みを持つていた人が、他の人の対処方法を実際に見る事が出来、とても勉強

強になりました。実際に園でもこのようなグループワークをする事により、いろいろな悩みの一つの解決方法となつていけばと思いました。

この研修に参加させて頂き、本当にコミュニケーションの大切さを感じ、一人ひとりを大切に日々保育していき、今中堅としての後輩の指導、保育士間のつなぎ役となり、よりよい人間関係づくりに向けていきたいと思つていきます。最後に講師をして下さった長尾先生はじめスタッフの先生方に、このような魅力ある研修に参加させて頂いた事を感謝します。ありがとうございました。

栗野正恵（天使保育園）

今回の研修会は聖マーガレット生涯学習研究所主任研究員長尾文雄先生をお迎えしての研修でした。私にとってこの研修会は初めてだったので緊張と不安でいっぱいでした。セッションが始まる前に長尾先生が緊張していた私達に「自分のことを他人に話し、他人の話しを聞くことで今の自分を見つめ直すいい機会にしてください」と話されました。この言葉で少し緊張もほぐれ始め、またどんなことをするのだろうかという期待が持てました。

また職種や勤務年数はさまざまでしたが、みんなが打ち解けて気軽に情報交換をしたり、悩みを話し合ったりすることで、お互いが共感し合い、一泊二日という短い期間ではありましたがとても充実した研修会となりました。

顔や名前を知るために自己紹介やいろいろな園の先生とグループになりパネルディスプレイをしました。特にロールプレイでは事例に基づきグループ内で役割（子ども、保育士、保護者）を決め実際に演じることに、それぞれの気持ちが分かり「自分ならこうする」とか「こうすればよいのでは？」などのアドバイス、意見などを出し合い、

考えることができても勉強になりました。また長尾先生が最後に「正解はあるようではない」と話されたことが心に残っています。一人で結論を出すのではなく、職員間で話し合うことでどのように対処していけばいいのかを考えていきたいと思えます。私自身も最後にみんなの前でミッションステートメント「積極的に人と関わり誰とも話し合えるように努力する」を肝に命じ日々努力していきたいと思えます。

鎌田志保（坂出育愛館）

この仕事を始めて、あっという間に二年という月日が過ぎてしまいました。子どもたちと決まったりリズムの中で生活していると、日によって機嫌の良い日、悪い日、また体調の良い日、悪い日など、子ども一人でも同じ様に一日が過ぎていく日はありませんでした。そんな毎日の中で、私はただ

前だけを見て子どもたちと接してきました。しかし今回の研修で、前だけを見ていくのではなく、後ろも振り返りながらいく事が大切だと、改めて感じました。

自分が子どもたちのために、どのように接していくのが一番良い方法なのか。一日一日を大切に過ごし、そして反省していく事。何年働いても、初心を忘れず心がけていきたいです。今回の研修に参加できて、とても勉強になりました。ありがとうございました。

長尾先生のセッションの中で、グループを作りその中で自分の意見をまとめて発表する。これは、自分の心の中で考えを明確にするだけでも、新しい発見ばかりでした。そして他の人の意見は、自分一人では考えられないものばかりで、とても刺激になりました。

河野由美（豊島神愛館）



イエス団の施設 ⑩

保育所

のぞみ保育園

◎住所／神戸市須磨区西落合七丁目1番1号

◎創立／一九八〇年四月一日

◎定員／一五〇名

◎職員／正規職員二四名、アルバイト四名、パート五名

◎施設長／仲澤一彦



◆◆◆DATA◆◆◆

最寄りの交通機関：神戸市営地下鉄「名谷駅」下車
TEL:078-791-8446 FAX:078-791-8491

のぞみ保育園は、神戸市のニュータウン開発にともない、郊外にのびる市営地下鉄の「名谷」駅近くに、神戸市より土地貸与され、当初一二〇名の定員で開園しました。二年目より一五〇名となり、現在にいたるまで二十四年間、定員割れもせず、地域の子育てに努力してきました。

コンクリートで囲まれた団地のなかにある保育園として、子どもたちに土と木に直接触れる機会を与えようと、園舎は平屋とし、内装にも木をふんだんに使用し、暖かな雰囲気のため保育がなされています。

団地も少子高齢化がすすみ、道路には幼稚園の送迎バスよりもデイサービスのバスの数の方が多くなったように思えます。卒園した子どもたちも十数ヶ所の小学校に分かれて入学します。このことは保育園の保育が地域に信頼され、入園希望というかたちで評価されていると思うっております。園庭開放や講演会を通して地域の方々の育児支援の場もつくり、今後もこの地に賀川の想いを継承してゆく働きを大切にしたいと願っています。



イエス団の施設 ⑪

保育所

宇山光の子保育園

◎住所／枚方市宇山東町八番三〇号

◎創立／一九七六年 枚方市立宇山保育所として開所
二〇〇四年四月 イエス団に移管

◎定員／一二〇名

◎職員／三十一名（非常勤職員を含む）

◎施設長／市川潤子



◆◆◆DATA◆◆◆

最寄りの交通機関：京阪電鉄「牧野駅」下車
TEL:072-851-0560 FAX:072-851-1962

宇山保育所が位置する地域にはすでに公立・私立の保育園がありました。人口増加が著しく入所希望者が多いため、九〇名定員（0〜5歳児）の「枚方市立宇山保育所」として一九七六年十月に開所しました。二〇〇四年四月から社会福祉法人イエス団に移管され一二〇名定員の「社会福祉法人イエス団宇山光の子保育園」となりました。

遊戯室をはじめとする各保育室の採光が良く、子ども達が、健康的でのびのびとした保育園生活をおくれる環境に恵まれています。また、近くには宇山東公園があり、ちよっと足を伸ばせば枚方八景のひとつである牧野公園があり四季折々の自然を満喫できる環境にあります。

経営が公立から民間に変わり保護者・職員の双方に戸惑いがありますが、互いに理解しあい子どもにとってより良い保育を目指していきたいと願っています。

《編集後記》

※再刊第7号をお届けします。原稿をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。長い間、私達に賀川先生の思いを熱く語ってください、多くの事を教えて下さった今井先生の退任は時代の移り変わりと同じ時に受け継ぐ者の責任の重さを痛感させてくれます。先生の感謝を表す活動に心より敬意の先生に神よりの御守りが豊かにありますように祈ります。(信)